様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１７３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０９９４６

研究課題名（和文）雲仙普賢岳噴火災害被災者における27年後の精神的問題と認知機能の関連

研究課題名（英文）Relationship between Mental health problems and cognitive functions of victims 27yeas after the Volcanicdisasters of Mt.Unzen Fugendake.

研究代表者
木下　裕久（Kinoshita, Hirohisa）

長崎大学・保健センター・准教授

研究者番号：１０３８０８８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：【概要】雲仙普賢岳噴火災害から33年が経過した長崎県島原市周辺の医療機関に通院または入院中の認知症または感情障害等の患者と県内の他の地域の医療機関に通院または入院中の患者でカルテ調査を行い、経過に地域差が認められるかの検証を行った。【調査方法】調査時に60歳以上の方で、認知症等で治療中の方の発症状況や治療経過を診療録の範囲で調査した。調査項目は、年齢、性別、初診年月日、診断名、罹病期間、初診時のGAFスコア、併存症の有無、同居家族の有無、内服薬の種類等である。【結果】２０２３年１２月初めから２０２４年３月末日まで調査を行い、島原地区60名、合計120名の協力を得た。現在解析を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究結果は現在解析中であるが、島原地区の方は、もちろんであるが、それ以外の地区の方にも、いくつかの被災経験がある方が含まれており、いくつかの災害は、うつ病などの発症に関連するものが認められている。認知症との関連の解析はこれからであり、その結果をできるだけ速やかにまとめて発表したいと準備中である。

研究成果の概要（英文）：Thirty-three years after the eruption disaster of Mt. Unzen-Fugendake, we conducted a medical record survey of patients with dementia or affective disorder, etc. who were attending or being admitted to medical institutions in the Shimabara City area of Nagasaki Prefecture and patients who were attending or being admitted to medical institutions in other areas of the prefecture, to verify whether regional differences were observed in the course of treatment.

The survey was conducted on the onset and course of treatment for those who were 60 years of age or older at the time of the survey and who were undergoing treatment for dementia, etc., within the scope of their medical records. The survey items included age, gender, date of first medical examination, diagnosis, duration of illness,etc. The survey was conducted from the beginning of December 2023 to the end of March 2024, and a total of 120 patients, 60 in the Shimabara area, cooperated. Analysis is currently underway.

研究分野：災害精神医学　　老年精神医学

キーワード：災害精神医学　老年精神医学　うつ病　全般性不安障害　不眠症　PTSD

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

1991 年 6 月の雲仙普賢岳噴火の大火砕流から,30 年以上が経過した。長崎大学精神神経科学教室は,1991 年から,地元の自治体ならびに保健所と協力して,被災直後から直近は 2015 年まで,地域住民のストレス状況のフォローアップ調査を行ってきた。これまでに、GHQ（一般精神健康度尺度）により、被災直後から、数年を経ても、精神的健康への影響が長期続くことがあきらかになった。その中で、抑うつ感、社会的無力感、不安、緊張などの症状は年月を経て改善していくのに対して、対人関係困難感は、長期持続するという傾向が明らかになった。また IES-R（出来事インパクトスケール改訂版）により、何等かの PTSD 症状（心的外傷後ストレス障害）による、不眠、過覚醒、回避などの症状を認める高得点者の割合は、13 年後 17%、25 年後 11.5%と比較的高い水準で経過することが解った。従来は,地域の健康診断会場もしくは,地域の公民館での自治会活動に参加中の住民に対して,アンケートを依頼する方式であったが,今回は,新型コロナウィルスの感染拡大防止の観点から,従来の方式での調査は,困難な状況である。そこで,本年は,各医療機関での,通院中または入院中の患者の診療録を基にした調査を施行する。

２．研究の目的

雲仙普賢岳噴火災害の影響が現在の地域の高齢者の認知症の発症やうつ病の発症にどのような影響を与えているかを明らかにする。

３．研究の方法

具体的な調査方法は,現在 60 歳以上の方で,感情障害,もしくは認知症で治療中の方を施設担当者に選出していただき、文書にて同意が得られた方の発症状況や治療経過への雲仙普賢岳噴火災害の影響を診療録の範囲で調査する。島原地区以外でも同様の調査を行い,普賢岳災害以外では,長崎原爆,諫早水害,長崎水害などの被災の有無を調べる。その他,現在の状況を調べる。今年度は島原地区の 2 病院と 2 クリニックおよび県内の他の地区での２病院との比較研究を行う

2023 年 9 月から 2024 年 3 月までの間に,対象の病院,クリニックに通院もしくは入院している現在 60 歳以上の方のうち,うつ病もしくは認知症の診断が付与された方を施設担当者に選出していただき、このうち、本人もしくは代諾者から同意が得られた方を調査対象者とする。 診療禄により,現在治療中の病名,現在の年齢,性別,外来,入院の別,GAF 尺度（機能の全体尺度）,HDS-R（改訂版長谷川式認知症スケール）、通院期間,入院期間,服薬の種類,量,同居の家族などを調べる。また過去の災害の経験の有無を調べる

４．研究成果

島原地区で 60 名、それ以外の地区で 60 名の協力を得た。このうちデーターの不備があった 1 名を除く、119 名を解析対象とした。119 名の男女比は、男性 34.5%女性 65.5%であった。初診時の平均年齢は 75.5 歳±10.6 であった。雲仙普賢岳噴火災害の被災経験のある方は、全体の 42%であった。初診時の HDS-R の平均点は、17.5±0.7、GAF の平均点は、41.3±16.6　であった。被災体験の有無と初診時の HDS-R 得点、GAF 得点とをウィルコクスン

順位和検定で検討した。それぞれ、有意確率が 0.804 ,0.102 という結果であり、どちらも統計的に有意差は認めなかった。被災体験の有無と認知症やうつ病の長期経過への影響については、さらなる調査と分析が必要と考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Hirohisa Kinosita, Hideyuki Nakane, Yasuyuki Ohta, Yoshiro Morimoto, Yusuke Matsuzaka, Sumihisa Honda, Hiroki Ozawa	４．巻 64
２．論文標題 Relationship between post-traumatic growth and symptoms of post-traumatic stress disorder a long time after a volcanic disaster	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ACTA MEDICA NAGASKIENSIA	６．最初と最後の頁 9‐14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 木下裕久　中根秀之　太田保之　野中俊輔　森本芳郎　松坂雄亮　金替伸治　倉田青弥　中野 健　野畑宏之　山口尚宏　本田純久　今村明　小澤寛樹
２．発表標題 雲仙普賢岳噴火災害25 年後調査-ストレス症状の長期経過と心的外傷後成長(PTG)-
３．学会等名 第115回　日本精神神経学会学術総会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

今後2024年9月21日から開催予定の日本精神科診断学会で、今回の結果の一部を発表予定である。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関